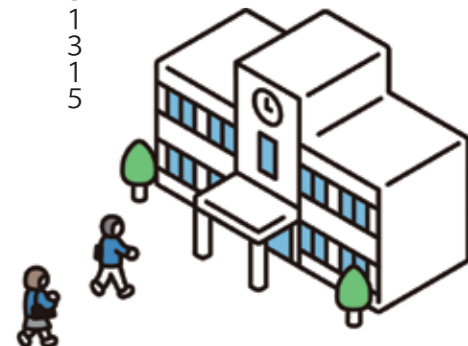


「市長と語るかわにしミーティング」を開催

# 教育のミライ

## 子どもに考えませんか

問い合わせ 政策創造課 ☎072(740)1120・Fax 072(740)1315



学校教育を中心とした「子どもたちの教育環境の充実」をテーマに、タウンミーティング「市長と語るかわにしMeeting」学校教育のミライを開催。

▼対象 市民と、市外在住で市内の小・中学校や就学前施設に通う子どもと保護者や関係者。

▼申し込み方法 市ホームページの申し込みフォームから必要事項を入力するか、市役所4階の政策創造課に備え付けの申し込み用紙（市ホームページにも掲載）に必要事項を書き、〒666-8501・政策創造課へ（郵便番号と課名で届きます。電話・ファクスでも可）。参加者には、後日メールで通知。

▼開催概要 開催日時と場所は下表の通り。子ども連れの人も参加できます。また、多目的に使用できる別室も準備（託児室はありません）。会場へは公共交通機関などを利用してください。

▼開催概要 今回の対話での皆さんからの声は、6年度から始まる「教育大綱」の参考にします。

▼教育大綱とは 市の教育、学術と文化の振興に関する総合的な施策について、6、13年度の長期目標や方針を定めるものです。

▼開催日時と場所は下表の通り。

日時・会場など一覧

中学校区	会場	日時	締め切り
東谷	北陵公民館	7月22日(土) 午前10時～正午	7月13日(木)
川西南	川西南公民館	午後2時～4時	
多田	多田公民館	7月29日(土) 午前10時～正午	7月20日(木)
緑台	緑台公民館	午後2時～4時	
明峰	明峰公民館	8月5日(土) 午前10時～正午	7月27日(木)
清和台	清和台公民館	午前10時～正午	
川西	キセラ川西プラザ	午後2時～4時	

募集期間は **7月31日**まで

川西市制70周年 **笑顔つづくミライへ**

## 市制70周年記念ロゴマークを募集

市は、令和6年8月1日で市制施行から70年を迎えます。市制70周年を記念し、笑顔あふれるまちを次世代につなげたいという思いから、テーマは「笑顔つづくミライへ。」に決定。今後、さまざまな記念事業を実施して市内外に市の魅力を発信する予定です。そこで、70周年を盛り上げるために使用するロゴマークを募集します。募集要項や応募方法など詳しくは市ホームページへ。

▼対象 18歳以下（平成17年4月2日以降に生まれた人）。市外在住者からの応募可

▼申し込み 市役所4階市制70周年記念事業事務局に持ってくるか、〒666-8501・市制70周年記念事業事務局（郵便番号と局名で届きます）へ郵送するか、メールで7月31日(月)までに同事務局へ

ここにロゴマークが入ります

川西市制70周年 笑顔つづくミライへ

ロゴの使用イメージ

問い合わせ 市制70周年記念事業事務局 ☎072(740)2034・✉kawa0213@city.kawanishi.lg.jp

日本一の里山の新たな交流拠点

# 黒川里山センターを開設

問い合わせ 黒川里山センター ☎072(738)0107（月・火曜日は休館）



## 指定管理者による運営を開始

NPO法人「コクレオの森」が貸室や各種プログラムを実施

4月から、黒川公民館は黒川里山センターとして、里山の交流拠点になりました。指定管理者としてNPO法人「コクレオの森」が運営し、旧黒川小学校の建物を利用した貸室などの業務を実施しています。木の实など里山の自然材料を使って工作する「里山アトリエ」や、自然遊びの「里山スクール」などのプログラムも開講。各プログラムについて、詳しくは8月号に掲載します。

また現在、避難所機能を備えた新棟の建設を進めています。詳しくは市ホームページへ。



## 一人一人が未来をつくる担い手

市長 越田 謙治郎

現在、市ではまちの未来を描く「第6次川西市総合計画」の策定作業中です。

4年度に実施したタウンミーティング「市長と語るかわにしミライ会議」や、「かわにしミライ会議」などでは、市民の皆さんからさまざまな意見や提案をいただきました。それらを踏まえ、各方面の専門家に参画いただいている「川西市総合計画審議会」で意見交換を行い、5年度中に完成見込みです。

同時に、政策ごとに具体的な事業や目標を定めた「個別計画」の策定も進行中。今後、さまざまなタウンミーティングやワークショップを開催する予定です。



川西の未来は、市民の皆さん一人一人の手によって形づくられます。この機会にぜひ参画してください。また、教育の在り方を定める「教育大綱」も動き始めています。策定に向け、7月中旬までに私や教育長、教育委員が市内の全中学校と特別支援学校を訪問。生徒・児童の皆さんと意見交流を行います。子どもの幸せのためにできることは、何かを与えることだけではなくありません。子ども自身が自分の幸せについて考え、意見表明する機会を持ち、実現に向けて私たちが後押しすることが大切です。今回の場を通じて、子どもたちもまちづくりの当事者として考え、未来をつくる担い手となることを期待しています。